

高等学校教材

第二版

日语

理工科用

周炎辉 主编

3

高等教育出版社

第三版教材证明
高等學校教材

日 語

第二版

(理工科用)

3

周炎輝 主編

高等教育出版社

内 容 提 要

本书是高等学校试用教材《日语》(理工科用)第三册的修订本。全书重点是放在阅读教学和翻译教学上,修订后增加了八讲“阅读指导”对如何提高阅读能力;加强阅读理解、提高阅读效率,在指导思想上和阅读方法上由浅入深地做了透彻的阐述,并有实例示范;在六讲“翻译要领”中,简明扼要地讲述了翻译知识、翻译技巧并安排了翻译实践内容;精选并调换了课文,语言材料富有趣味性,知识性,通俗性,一定的生动性,在语言文字上有足够的深度;练习内容丰富多样。

本书除用作高校公外教材外,亦可做各种类型的业余学校和日语自修者使用。

责任编辑 赵德雍

高等学校教材

日 语

第 二 版

(理 工 科 用)

3

周炎辉 主编

*

高等教育出版社出版

新华书店北京发行所发行

朝阳区展望印刷厂印装

*

开本 850×1168 1/32 印张 7.5 字数 185,000

1979年3月第1版 1986年5月第2版 1986年6月第1次印刷

印数 00,001—18,790

书号 9010·0265 定价 1.25元

第三册第二版说明

根据教学大纲的要求,第三阶段的教学时数为70学时,因此第三册共安排十二课。第一课至第八课为句法、文章分析法教学,第九课至第十一课为翻译教学,第十二课整理惯用型。

第三册教学的重点是放在阅读教学上。第一课至第八课增加了“**閱讀への道**”(阅读指导)这一教学项目。每一课的阅读指导都紧密配合句法、文章分析法的教学。

本书由湖南大学外文系日语教研室周炎辉主编,王呈尧、于爱贞参加编写,在湖南大学工作的日本籍教师田中宽先生提了许多宝贵意见。最后由苏德昌、李长信同志审阅。编者谨志谢忱。

编者 1985 年 4 月

目 次

第一課	1
本文：緑と青の自然	1
文法：一、文素	7
二、展開的文素	8
三、閲読への道(一)	9
第二課	18
本文：川と人間	18
文法：一、文の成分	25
二、閲読への道(二)	29
第三課	41
本文：方程式の歴史	41
文法：一、陳述の様式	46
二、閲読への道(三)	48
第四課	58
本文：動物の数学	58
文法：一、単文の分析	63
二、閲読への道(四)	66
第五課	76
本文：天動説と地動説	76
文法：一、有属文の分析	80
二、閲読への道(五)	83
第六課	93
本文：水平面	93
文法：一、合文の分析	97
二、重文の分析	99

三、閲読への道(六)	100
第七課	111
本文:生産のしくみ	111
文法:一、文と文とのつながり	115
二、閲読への道(七)	118
第八課	128
本文:機械との共存	128
文法:一、文章の分析	132
二、閲読への道(八)	135
第九課	144
本文:化学と生活	144
翻訳の要領:一、概説	148
二、ことばの意味の選択と広がり	150
第十課	159
本文:ミツバチのダンス(上)	159
翻訳の要領:一、ことばの増加と減少	163
二、語順の変化	166
第十一課	173
本文:ミツバチのダンス(下)	173
翻訳の要領:一、文の成分の変化	177
二、長い文を短い文に	178
第十二課	187
本文:オームの生誕地を訪ねて	187
慣用型のまとめ	193
総詞彙表	205

第一課

本文：緑と青の自然

文法：一、文素

二、展開的文素

三、閲読への道(一)

本文

緑と青の自然

日本列島の自然は、どんな特色をもっていたであろうか。また、その自然は、日本人の生活様式やものの考え方に、どのような影響を与えてきたであろうか。

まず、日本列島が、熱帯と寒冷地域との中間にあって湿潤であり、植物の繁茂に極めて適していることを指摘しなければならない。日光は強すぎず弱すぎず、しかも年間を通して適度の降雨があり、地球上で最も植物の豊かな地域の一つである。

だから、日本人の生活は、昔からすべてにわたって植物への依存度が高かった。家屋は木材を使って建てられている。衣料では、麻や木綿のような植物繊維がはなはだ重要な材料となっている。食生活についても同様である。農耕が日本人の暮らしの中心になったことも、その結果として当然であった。

日本の自然の特色をもう少し考えてみよう。日本人のだれかに「自然の色は何色か。」と尋ねてみると、いちばん多い答は緑である。緑に次いで多いのが青であり。さらに茶色である。このことは何を意味しているだろうか。

自然界をいろどる緑の正体は、植物の葉である。つまり、日本人が「自然の色は?」と聞かれて、まっさきに緑を思い浮かべるのは、日本の山野にいかに植物が多いかの表れである。さらに、青を思い浮かべるのは、晴れた日の空の色が美しく、また、地上にきれいな水が豊富にあることを表している。そして茶色は、いうまでもなく土の色である。

水に関連して、水蒸気の存在も挙げなければならない。よく歌の文句にも「山紫に水清く」などという言葉が登場するが、「水清く」はよいとして、山が紫とはどういうことであろうか。それは、山肌をおおっている植物の緑の上に、もう一つ別の要素が加わることを示している。そして、別の要素というのは、水蒸気が正体である「かすみ」である。日本の気候が湿潤であることの証拠といえよう。

かすみのような現象によって、植物の鮮やかな緑が、くすんだ紫色に変えられる。つまり、本来の鮮明な色彩が和らげられるわけである。日本の自然は、鮮やかな原色よりも、むしろ中間色が多いということになろう。

水と植物、この二つは、人間の生命を支えるために欠くことのできない資源である。これが豊かにあることは、日本列島が、人間の暮らしにとって、まことに恵まれた土地であることを示している。それに加えて、中間色で和らげられた風景が周囲を取り巻き、それが日本人に、自然を極めておだやかなものとして印象づけているのである。

(光村図書「国語一」)

新 出 語

- | | | | |
|----|---------|--------|--------------|
| 1 | れっ とう | 〔列島〕 | (名)列島, 群島 |
| 2 | とく しょく | 〔特色〕 | (名)特色 |
| 3 | よう しき | 〔様式〕 | (名)样式, 方式 |
| 4 | ねっ たい | 〔熱帯〕 | (名)热带 |
| 5 | かん れい ち | 〔寒冷地域〕 | (名)寒冷地区 |
| | いき | | |
| 6 | しつ じゅん | 〔湿润〕 | (形动)湿润 |
| 7 | はん も | 〔繁茂〕 | (名・自サ)茂盛生长 |
| 8 | きわめて | 〔極めて〕 | (副)极其 |
| 9 | てきする | 〔適する〕 | (自サ)适宜 |
| 10 | し てき | 〔指摘〕 | (名・他サ)指出 |
| 11 | にっ こう | 〔日光〕 | (名)日光 |
| 12 | よわい | 〔弱い〕 | (形)弱 |
| | よわすぎる | 〔弱すぎる〕 | (自一)过弱 |
| 13 | ねん かん | 〔年間〕 | (名)一年中 |
| 14 | とおす | 〔通す〕 | (他五)通过, 整个…… |
| 15 | てき ど | 〔適度〕 | (名・形动)适度 |
| 16 | こう う | 〔降雨〕 | (名)降雨 |
| 17 | ち きゅう | 〔地球上〕 | (名)地球上 |
| | じょう | | |
| 18 | ゆたか | 〔豊か〕 | (形动)丰富 |
| 19 | い ぞん ど | 〔依存度〕 | (名)依赖程度 |
| 20 | か おく | 〔家屋〕 | (名)房屋 |
| 21 | もく ざい | 〔木材〕 | (名)木材 |
| 22 | い りょう | 〔衣料〕 | (名)衣服, 衣料 |

23	あさ	〔麻〕	(名)麻
24	も めん	〔木綿〕	(名)棉
25	せん い	〔纖維〕	(名)纤维
26	はなはだ		(副)甚,相当
27	じゅう よう	〔重要〕	(形动)重要
28	しょく せい かつ	〔食生活〕	(名)饮食
29	どう よう	〔同様〕	(名·形动)同样
30	のう こう	〔農耕〕	(名)农耕
31	とう ぜん	〔当然〕	(名·副·形动)当然
32	なにいろ	〔何色〕	(名)什么颜色
33	たずねる	〔尋ねる〕	(他一)寻,问
34	つぐ	〔次ぐ〕	(自五)接连,次于
35	ちゃ いろ	〔茶色〕	(名)茶色
36	いろどる	〔彩る〕	(他五)装点,打扮
37	しょう たい	〔正体〕	(名)原形,真面目
38	まっさき	〔まっ先〕	(名)最先
39	おもいうかべる	〔思い浮かべる〕	(他一)想起
40	さん や	〔山野〕	(名)山野
41	いかに		(副)怎样,多么
42	あらわれ	〔表れ〕	(名)表现
43	はれる	〔晴れる〕	(自一)晴朗
44	うつくしい	〔美しい〕	(形)美丽
45	ほう ふ	〔豊富〕	(名·形动)丰富
46	いうまでもない		(词组)不用说
47	つち	〔土〕	(名)土,泥土
48	かん れん	〔関連〕	(名·自サ)有关
49	すい じょう き	〔水蒸気〕	(名)水蒸气

50	あげる	〔 <u>挙</u> げる〕	(他一)举出
51	うた	〔歌〕	(名)歌,和歌
52	もん く	〔文 <u>句</u> 〕	(名)语句;不满
53	むらさき	〔 <u>紫</u> 〕	(名)紫色
54	きよい	〔清い〕	(形)清爽
55	とう じょう	〔登 <u>場</u> 〕	(名・自サ)出现,出场
56	やまはだ	〔山 <u>肌</u> 〕	(名)秃山的地表
57	おお	〔覆う〕	(他五)复盖
58	よう そ	〔要 <u>素</u> 〕	(名)要素,因素
59	くわわる	〔加 <u>わ</u> る〕	(自五)加
60	かすみ		(名)霞,彩霞
61	き こう	〔気 <u>候</u> 〕	(名)气候
62	しょう こ	〔証 <u>拠</u> 〕	(名)证据
63	あざやか	〔鮮 <u>や</u> か〕	(形动)鲜明
64	くすむ		(自五)不鲜明
65	ほん らい	〔本 <u>来</u> 〕	(名・副)本来
66	せん めい	〔鮮 <u>明</u> 〕	(形动)鲜明
67	しき さい	〔色 <u>彩</u> 〕	(名)色彩
68	やわらげる	〔和 <u>ら</u> げる〕	(他一)使柔和
69	げん しょく	〔原 <u>色</u> 〕	(名)原色
70	ちゅう かん しょく	〔中 <u>間</u> 色〕	(名)中间色
71	せい めい	〔生 <u>命</u> 〕	(名)生命
72	かく	〔欠 <u>く</u> 〕	(他五)缺少
73	まことに		(副)的确,真是
74	めぐまれる	〔恵 <u>ま</u> れる〕	(自一)受惠,天赋
75	と ち	〔土 <u>地</u> 〕	(名)土地
76	くわえる	〔加 <u>え</u> る〕	(他一)加

77	ふう けい	〔風景〕	(名)风景
78	しゅう い	〔周囲〕	(名)周围
79	とりまく	〔取り巻く〕	(他五)包围
80	おだやか	〔穏やか〕	(形动)安稳
81	いん しょう	〔印象〕	(名)印象
	いんしょうづ ける	〔印象づける〕	(他一)留下印象

慣 用 型

1. (体言)にわたって……〔修饰惯用型〕

这个惯用型接在表示时间、范围的体言后面,构成状语,表示在整个范围内的意思。例如:

その会議は五日間にわたって行なわれた。／那个会议开了五天。

日本人の生活は、昔からすべてにわたって植物への依存度が高かった。／日本人的生活自古以来就对植物的依赖程度很大。

2. (用言终止形)として……〔修饰惯用型〕

这个惯用型用以表示虚拟条件,可译作“假定……”“设……”“令……”。例如:

それらの力の合力を F とすれば, $F=0$ である。あるいは成分に分けるとして, $X=0, Y=0, Z=0$ である。／如果以这些力的合力为 F ,则 $F=0$ 。或者,如果分解为分力,则: $X=0, Y=0, Z=0$ 。

よく歌の文句にも「山紫に水清く」などという言葉が登場するが、「水清く」はよいとして、山が紫とはどういうことであろうか。／在和歌的诗句中常出现“山青水秀”这样的话,“水秀”暂且不论(假定它是对的),那么“山青”又是什么意思呢?

3. (体言)にとって……〔修饰惯用型〕

这个惯用型用以构成状语,表示某一事物对于某人(物)来说具有什么意义或作用,可译作“对于……(来说)”例如:

それはわたしにとって興味のある問題です。／对我来说,这是一个很有兴趣的问题。

文 法

语法提要

- 一、什么叫句素,句素的构成形式。
- 二、什么叫扩展的句素和词组,词组中实词之间的关系,扩展的句素形式。
- 三、怎样进行精读和速读,阅读基础训练之一——辨认句素。

一、^{ぶんそ}文素(句素)

句法是研究组词成句规则、句子类型等的一门学问。怎样把一些词组成一个句子是受句法规则约束的。

一个单词要进入句子就要变成句素。句素是句子的最小单位,也是句法研究的基本单位。例如“植物”是一个名词,它不能直接进入句子。进入句子时它必须同助词、助动词等结合在一起,成为“植物が”“植物を”“植物だ”等形式。这种形式就叫句素。

在日语里,构成句素的方法主要有三种:

1. 实词加虚词。这主要是指体言加助词、助动词。例如:植物が,植物を,植物の,植物だ,これに,一つの,等等
2. 实词通过形态变化成为句素。例如用言变成连体形,就

可以进入句子作定语(豊かな,美しい等),变成连用形可以进入句子作状语(豊かに,美しく等)。

3. 实词通过词序手段可以与别的词构成修饰限定关系。副词、连体词、感叹词、接续词放在别的词的前面就可以成为起修饰限定作用的词素,例如:この(植物),すこし(つくる)。

てんかいできぶん そ

二、展開的文素(扩展的句素)

词组是两个以上的实词通过一定的语法手段结合而成的,在词组中实词之间的关系一般有如下几种:

- | | |
|---------------|-------------|
| 1. 主谓关系,例如: | 冷たい水 |
| 温度が上がる | 必要な物質 |
| 抵抗が小さい | 計器の誤差 |
| 2. 动宾关系,例如: | そのとき |
| 栄養分を運ぶ | よくあたる |
| 物体を放置する | 光合成によってつくる |
| 3. 动补关系,例如: | 5. 并列关系,例如: |
| 細胞でつくる | 電流と電圧 |
| 植木鉢に入れる | 生活や生長 |
| 土から得る | 生長したり生活したり |
| 物体へ移る | 直流用か交流用か |
| 4. 修饰限定关系,例如: | 電流計、電圧計 |

词组并不是句法单位,它的性质和单个词是一样的。例如“じぶんの葉の細胞”“冷たい水”“電流と電圧”就相当于一个体言,叫体言性词组;“温度が上がる”“抵抗が小さい”“栄養分を運ぶ”“細胞でつくる”等相当于一个用言,叫做用言性词组(词组中最后一个词是体言的叫体言性词组,最后一个词是用言的叫用言性词组)。词组不能直接进入句子,因为它还不是句素,例如“じぶんの葉の細胞”只有加上で等,才能成为句素(扩展的句素);“温度が上

がる”等只有在它的最后一个用言变成终止形、连体形、连用形等才能成为句素(扩展的句素),在此之前它只相当于一个基本形的用言。

扩展的句素的形成也要通过三种语法手段,所以它的形式也有三种:

1. 词组加虚词,例如:

電流と電圧 の (測定)

直流用か交流用か が (しるしてある)

冷たい水 を (入れる)

2. 通过形态变化,例如:

植木鉢に入れる (土)

土から得る (栄養分)

3. 通过词序,例如:

そのとき□(取り出す)

あしたの午後□(やる)

三、^{えつどく}閱讀への道^{みち} (阅读指导) (一)

要能顺利地阅读日文书刊,必须掌握相当数量的词汇,掌握必要的语法知识,同时还必须进行适当的阅读练习,掌握正确的阅读方法。

阅读必须从精读入手,也就是运用已学的词汇和语法知识去正确地分析以便透彻理解一篇文章,然后加快阅读速度,培养快速阅读的能力。

无论是精读还是快速阅读,首先必须能够正确地辨认句素,能够正确地把一个句子分解成一个一个的句素。以本课课文第一段为例,要能把它作如下分解:

日本列島の／自然は／どんな／特色を／もって／いたであろ
うか。／また／その／自然は／日本人の／生活様式や／ものの

／考え方に／どのような／影響を／与えて／きたであろうか。

进一步,就要能以扩展的句素为单位来读,即分解成:

日本列島の自然は／どんな特色を／もっていたであろうか。

／また／その自然は／日本人の生活様式やものの考え方に／どのような影響を／与えてきたであろうか。

練 習

(一)

一、()の中に助詞を入れなさい。

1. どんな特色()もっているか。
2. 日本人の生活様式()大きな影響を与えてきた。
3. その気候は植物の繁茂()適している。
4. 年間()通して……
5. すべて()わたって……
6. 家屋()建てる。
7. 青は緑()次いで多い。
8. 自然界()いろどる。
9. 緑()思い浮かべる。
10. 例()挙げる。
11. 山肌()おおっている。
12. その上()もう一つ別の要素()加わっている。
13. 緑()くすんだ紫色()変える。
14. 鮮明な色彩()和らげる。
15. 人間の生命()考えている。
16. 美しい風景()周囲()取り巻いている。

二、例にならって次の文を文素に分けなさい。

例：熱には物の温度を変えるはたらきがある。

1. 回路を流れる電流をはかる。
2. 電流計を回路につなぐ。
3. このとき、熱が温度の高い物体から低い物体へ移る。
4. 熱量をはかる単位はカロリーである。
5. やがてその両方の温度が等しくなる。
6. 日本の自然の特色をもう少し考えてみよう。

三、次の連語の^{れんご}類別を^{るいべつ}いいなさい。

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1. 水を熱する | 2. いちばん多い |
| 3. 高いほう | 4. 時間がかかる |
| 5. 1キロカロリーという | 6. 単細胞の植物 |
| 7. そのまま | 8. 回路を流れる |
| 9. 1°Cだけあげる | 10. 必要な熱量 |
| 11. 二点間につなぐ | 12. 電流 I と電流 I' |

四、例にならって次の連語の展開過程を示しなさい。

例：回路中の2点間の電圧をはかる

1. 細胞で作りだした栄養分
2. そのまま細胞で用いる
3. 成長のさかんな部分
4. 低いほうの温度
5. 物体の温度を変えるはたらき
6. 1gの水の温度

五、例にならって次の文素の展開過程を示しなさい。

例：温度の高い物体と、温度の低い物体とを